

現職教育

1 学校研究

(1) 研究主題

生き生きと自ら学ぶ生徒の育成 ～考えを適切に表現する活動を通して～

(2) 主題設定理由

昨年度は、「場面や条件に応じた適切な表現で、自信をもって他者に伝えることができる」を研修主題として取り組んだ。生徒がさまざまな場面で自分の考えを伝えることへの抵抗感が少なくなってきたが、課題に対して適切に表現する力が不十分と考えられたからである。そこで、①話し合い活動の際の「視点の提示」と②より良い表現を引き出す「問い返し」の2つを重点として取り組んだ。

「視点の提示」を明確にすることで、生徒がスムーズに活動に入り、より適切な表現を探すことに時間をかけることができた。また、教員側もあらかじめ視点を明確にしておくことで活動の評価生かすことができた。また教師が適切に「問い返し」を行うことで、生徒がより良い表現に気付くことができた。取組を通して検証問題の数値に向上が見られた。しかし、目標値には届いていない。その理由として、課題の設定や条件に対して適切に表現する力が不十分であるからだと考えられる。

そこで今年度は、「生き生きと自ら学ぶ生徒の育成 ～考えを適切に表現する活動を通して～」を研究主題として、生徒が自分の考えを表現する場面を工夫して設定し、生徒が課題の場面設定や条件を良く読み取り、それに応じた適切な表現で、学んできた知識を活用しながら、自信を持って表現できる生徒の育成を目指したい。

【求められる力】

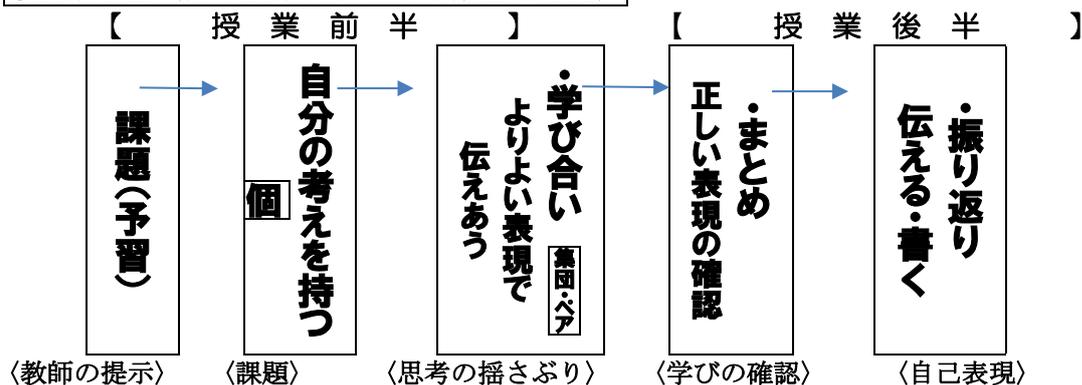
- ・生きて働く「知識・技能」
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」 - 人間性等の涵養 -

(3) 研究内容

- ①授業改善（授業スタイルの徹底と応用）
- ②学びを深めるペアやグループ活動の充実（研究の重点）
- ③道徳や特別活動、生徒会活動における話し合い活動の充実と教科間の交流（他教科との連携・他学年との交流）

(4) 具体的な取組

①授業改善（柳中授業スタイルの徹底と応用）



- 課題 上質な課題 (考えたくなる・話したくなる・少し考えるとわかりそう)
- 自力解決 十分な時間 (自分の考えを書く)
- 学び合い
 - ・話が盛り上がるように意見を促す、班員を指名する、記録する
 - ・「なぜ?」「どうして?」「本当に?」など全員が話せる場面を作る
- 発表 代表発表 ワールドカフェ 全員発表 →発表の仕方工夫
- まとめ 課題に対する正しい答えの確認
- 振り返り 自分の考えの変化や自分の到達点、新たな疑問、次への意欲、感動等

教師の働きかけのポイントと手立て

- ① 教師の提示の内容 授業の課題について学び合いの視点が適切か。
何を深めて、何を振り返るのか。
- ② 研究授業 全員に押さえてほしい内容の理解はなされたか (学び合い)
正しい表現を理解して自己表現につなげているか (振り返り)
- ③ 各教科の振り返りのポイントの決定とノート検証の定着 (例: 適用問題・条件付きでまとめる)

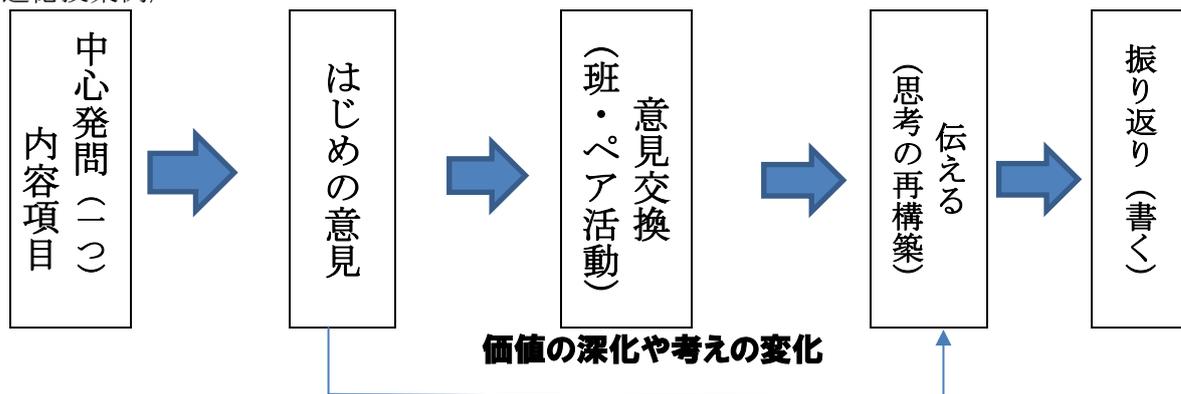
②学びを深め、正しい表現を身につける活動の充実

- 学びを深め、正しい表現を身につけるために、予習課題の提示と生徒の不十分な解答から適切な表現を導き出すための場面の設定。
教師と生徒、生徒同士のファシリテーション能力の向上。教師の視点の提示。
- 振り返りでの学びの自覚化
課題解決に向けて、適切な言葉や表現を自分で見つけ、整理し、正しい表現でまとめたり、学習の内容を振り返ったりする。
- 基礎学力の向上のために
補習や放課後学習での教え合い。小テストや帯活動での知識の定着をはかる。

③道徳や特別活動での学び合い活動の充実

- 道徳の授業のスタイルは中心発問を軸とし、道徳的な課題に対して自分自身の問題として考え、多様な考えに触れることを通して解決策を見出していく活動を充実させる。教師が問い返しや切り返し発問などを積極的に取り入れながら、生徒がいろんな課題と向き合うことを通して道徳心を育んでいく。また、ワークシートを今年度も利用する。

〈道徳授業例〉



- 教科間の交流と連携
特別支援学級との交流、学年間の交流授業を積極的に取り入れる。また、学習集会などで学年を越えた活動も考え、効果的な学び合いを模索していく。
- 生徒会活動で学年間の交流
委員会活動で一人一役の担当や学習集会による学年間交流活動を通して、状況を変えて自分の意見を発表する機会から自信を持たせる。